

第5回 山武市景観計画策定委員会 議事要旨

◆日 時：平成26年6月20日（金） 14時00分～16時08分

◆場 所：山武市役所新館第5会議室

◆次 第

1 開会

2 委員長あいさつ

3 スタッフ紹介

4 議事

(1) 平成26年度のスケジュールについて

(2) 山武市景観計画（素案）の構成について

(3) 山武市の景観づくりの作法について

5 その他

6 閉会

◆出席委員

北原理雄委員長、猪野源治副委員長、中谷正人委員、福田順子委員、行木静委員、
廣口芳治委員、稗田忠弘委員、石橋宏委員、小川千洋委員、【欠席】中村順子委員

◆事務局

都市建設部：小崎部長

都市整備課：八木課長、大谷主幹、秋葉副主幹、吉原主査補、若梅主査補

昭和株式会社：青野、加藤、柴崎



◆議事

【要旨】

(1) 平成 26 年度のスケジュールについて

景観計画の策定及びガイドラインの策定などに向けた、今年度のスケジュールについて、A4 一枚の資料としてまとめ、後日、委員に郵送する事となった。

(2) 山武市景観計画（素案）の構成について

第 4 回策定委員会での意見を受けて、事務局で整理した山武市景観計画(素案)の構成について、意見交換を行い、“計画全体の流れがわかりやすくなるよう、各項目につながりを持たせた方が良い”や“各項目の関係性を再度整理して、相関図等で示した方が良い”などの意見が挙げられた。

(3) 山武市の景観づくりの作法について

山武市景観計画（素案）第 5 章について、ガイドラインを見据えたイメージを参考に意見交換を行い、“中では自分のものだけど、外はみんなのものだ”という精神こそが景観づくりの作法だと思う”や“景観計画の段階では、細かい規制ではなく、考え方が伝わる事が非常に大切である”などの意見が挙げられた。

【議事内容】

(1) 平成 26 年度のスケジュールについて

名前	意見内容
委員長	・昨年度の検討のおさらいと今年度のスケジュール案をご説明いただいたが、ご質問やご意見があったらお願いしたい。
委員	・もし可能であれば、スケジュールのメモなどを頂けると助かるのだが。
委員長	・今年度のスケジュールについて、A4 一枚にまとめてほしい。
事務局	・後ほどご郵送させていただく。
委員長	・今日ご議論いただいて、次回の委員会に向けて、素案を確定する流れを進めていく。

(2) 山武市景観計画（素案）の構成について

名前	意見内容
委員長	・前回の議論を踏まえて、主に第 3 章と第 4 章の修正点について説明いただいたが、第 1 章からの内容も含めて、何かあったらご意見いただきたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだん良くなっているのではないかと思う。“人と人をつなぐ”については納得しやすいが、景観づくりは、単独で市の施策にあるわけではなく、「暮らしやすく、住みやすい」という大きな目標の中での一部である。市の様々な事業もリンクしてくるはずなので、“人と人をつなぐ”と短い文章で終えるのではなく、全体の施策のうちの「これだ」という書き方はできないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか難しい注文かと思う。これを書き出すと別に一冊出来上がってしまう。総合的な施策の中で「景観」は、この部分に位置するというような相関図などが、どこかに入ってくると理解しやすくなると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の中のどの部分に位置するかについての記載は可能だが、ご検討させていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これから様々な縛りをかけていくことになると思うが、行政が造る建物の色がケバケバしていたりと、景観を壊しているのは行政ではないかと思ってしまう。市民だけ縛っても、行政が勝手なことをしてはいけないと思う。実際に、市内を車で走っていると、「なにこれ」と思う公共施設が多い。そういう意味で景観を大きな視点（市全体の施策）の中で位置づけないといけないと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政がケバケバした色の建物を建ててしまうのは、山武市だけではないと思うが、そういう傾向はある。ガイドラインを作成するときにしっかり、入れ込んでいくことが必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・構成について、逆に解りにくくなってきたように思う。1頁ずつはまとまっているが、すごいデジタルに感じる。まちづくりはアナログで、流れがあり、つながっていないといけないと思う。1頁ずつ切れているように感じた。 ・それから、28頁から整理されている類型別基本方針のキャッチフレーズが長すぎて、何を言っているのかがわかりにくい。また、ゾーン別の基本方針ではそれと関係ない言葉が出てくるので、関連性がわからない。頭の中が整理しにくくなった。 ・デジタルに感じると思った代表例として、57頁の「6次産業化」で、文章では、「生産・加工・販売の一体化」と言っており、図では、1次産業が全部に関わること「1次産業×2次産業×3次産業」が、6次産業の精神であるのに、「1次産業+2次産業+3次産業」になっており、同じ「6」でも意味が違う。文章と図の整合が取れていない。 ・せっかく伊藤左千夫の良い詩が出てきているので、これをうまく

	<p>使い、色々な文言を書かずにシンプルに書いた方が良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来はどうするのか、未来の絵姿が見えない。未来はこうしていくというまとめが最後にあった方が良いと思う。 ・小布施の町を作った宮本先生は「風の通るまちにするのだ」という筋を通し、駐車場などに全部風が通るような流れになっている。そのように、一本筋を通してもらって、そこからいろんなことを考えていけたら良いと思う。1頁ずつ完結しているとパワーポイントみたいになり、わかりにくい。今の構成を大幅に直すのではなく、流れを作ってまちづくりを考えてもらいたいと思った。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・頁ごとにはまとまっているけれども、全体の流れが逆に見えにくくなっているという事で、ご指摘の通りである。もう一度通して読んでみて、流れがわかりやすくなるにはどうしたらいいのか検討していただきたい。確かに25頁以降について、目標と、類型別基本方針、ゾーン別基本方針のそれぞれの関係がわかりにくくなったと思う。再度整理をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も「6次産業化」については、違うなと思っていた。せっかく“生業とつなぐ”という言葉が出てきて良かったなと感じていたが、実際、山武市産業の持続の可能性をしっかりと考えたときに、「6次産業」より「1次産業」が十分に生きる市にしないといけないと思う。「1次産業」だけで生きていける方向に向かっていかないと将来の持続性につながらない。先ほど言った大きな視点についても、これを含めないといけないと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「6次産業化」については、ないといけないのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「6次産業化」になった途端に、経済不況に巻き込まれて「1次産業」が駄目になっていくことも考えられる。個人的には、市民が幸せに生きられる環境というのは、そういう事ではないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策として、全国で取り組まれている事例が、報道された。そのひとつに、千葉県栄町では何年も前から、若者に定住してもらうため、いろんな条件を付けたうえで、若者夫婦に補助金を出して、実際に人口が増加したという報道があった。山武市でも景観のみならず、山武の地場産業の持ち味をずっと継続していけるような形を考えていくうえで、若者が定住、転入してもらうような、施策が必要になってくると思う。また、勝浦地区では、商工会が中心となって、若者向けの説明会を開くなど、なんとか若者に残ってもらう仕組みを始めている。このような仕組みの検討や条件整備をしていくことと同時に、山武市景観計画に、その

	<p>内容を入れ込めれば良いと思った。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「6次産業化」という言葉を使うよりも、山武の生業をどうやって評価していくのか。農業には何が必要なのかという視点で描いた方がわかりやすいかもしれない。そしてその中で若い人にも定着してもらえるようにしていく、一緒に景観つくっていいのだというメッセージを込めていくと良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「6次産業」はいろいろ仕事が増えるだろうという話がある一方で、地産地消という事も言われている。現在、山武地域と長生地区でバイオマスの実証実験をやらせていただいている関係で、一昨日高知県の森林組合と話をしてきて思ったことだが、山武の中でエネルギーあるいは食料の自給自足はできないだろうか。農業と林業をどうやって結びつけるかというときに、間伐材をどうやって利用するのかという話になる。ハウス園芸をやっている農家さんの暖房燃料にする。地元の山からそれを引き出して行って、それを供給する流れである。自給自足を前提として組み立てていけないものか。その中で余剰が出来きて、外に売り出す方法をどう取るのかは次の段階。ストーリーが見にくいという事で、山武市はせっかく山から海までの風景を全て持っているのだから、それぞれが関係し、景観を含めたライフスタイルというものを作っていくときに、自給自足の循環システムをつくることも考えられるのかなと感じた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・生業と言っている背景には、その意味もあったのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・完全な自給自足というのは今の時代ありえないかもしれないが、山武市のペレットストーブは、まさに施策としてやっている。「自分たちで作れるものは自分達で」ということこそ、ホントの意味でのまちづくり社会だと思う。「景観」と言ったときに、いろいろな規制をかけてつくる景観と、生業から自然に生まれてくる景観がある。前回の意見であったように、規制をかけるとき、小さい住宅などは例外になってしまう。日常の暮らしの中の景観というのは、自然と生まれてくるものだと思うので、分けて考えないと、理念をうたっただけではだめ。最初に言ったように、大きな将来を見通した中の一部に添えてあげないといけないと思う。生まれてくるものをどうやって良いものにして、景観にしていくかが大切なことだと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・山武の総合的なまちづくりの中で、景観では何をするのか、何を期待しているのかが見えるようなものが25頁ではなく、もっと前

	<p>の方に入れた方がわかりやすいかもしれない。4頁の「景観計画の位置づけ」の図をもう少しわかるようにすると意見が反映されるかと思う。それがしっかりしていると流れも分かりやすくなるかと思うので、ご検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27頁「生業をつなぐ」の写真を見ると、「林業と農業だけが生業だ」という写真になっているが良いのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最近まちなかに、空き家がかかり目立ってきている。こういう景観を何とかしないといけないと思う。更地だけになってしまうのも困る。景観に良くないと感じる。私が住んでいる松尾は、国道沿いに、人が住んでいない家が目立ってきている。壊すものは壊してもらっていいのだが、更地になった後、そこをどうしたらいいのか。外から見たらゴーストタウンみたい感じるのではないか。こうした空き家についての景観づくりが何かあれば良い。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・重要なお意見を頂いた。空き家・空地問題と言うのは、大きな市でも問題になっている。例えば千葉市では住宅局の問題であるが、山武くらいの小さなまちの場合は一部局の話ではなく、まち全体の話である。そういった意識も持ちながら、この景観計画を進めてほしいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾地区は国道が狭いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・元々狭かった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道もないくらい狭く、これを機に道を広げていただいたらどうか。松尾に関して言えば、住民の方々にとって良いのではないかと考えた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な意見ではあるが、総合的な都市計画部門の話である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾の中高生の登校時間になると、駅前の道路いっぱいの子供たちがあふれ出ている。まち興しの中心は道路づくりではないか。千葉大生と松尾高校生の会合があった時に、まさにその話題が出た。また、高校生が、学校から駅までの間にどこか立ち寄る場所が欲しいということで、新玉屋という肉屋さんがベンチを作ってくれ、コロッケを食べている学生が毎日いる。市民の方々共々、集う場所があったら、松尾が活性化すると思う。駅前道路については、交通上危険をはらんでいるので、学校に行く専用道路があっても良いのではないかとと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の方は、手に余るものは、関連部局と協力して進めていけるようお願いしたい。

(3) 山武市の景観づくりの作法について

名前	意見内容
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・景観づくりの作法について、説明いただいたが、何かご意見はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「作法」と言いながら、やたら細かい数値が出てきたように思う。個々の物については同意できないものがいろいろある。ただそれ以上に、58頁「その他（例）」の項目について、以前よりかなり具体的になってきてはいるが、やはり「作法」の心構えが必要で、挙げられている例（作法）に対しての具体的な話が出てくると良いのではないかと思う。 ・景観形成基準の中の「色彩」を例に挙げると、写真（スライド資料）のログハウスは自然の色ではない。細かい話ではあるが、多分これはステインを塗っているのだから、自然の色だと思ったら、大間違いである。ステインは耐久のために塗るもので、白や赤や、青などの場合もある。見方によって、これを自然の色と判断するのは難しい。そのように、建築設計のプロの視点で見ると、あいまいな記述が非常に多い。例えば「形態意匠」の写真で、切妻屋根のものがあるが、よく見ると実は、真ん中の色が違うし、陸屋根に見えるが、かなり緩い勾配屋根が乗っかっているように見える。おそらく図面を見ればわかると思うが、この写真からは見てとれない。この場合に陸屋根かどうかということより、屋根勾配がどのくらいあるか。つまり、外から見たときにどうか。それが景観だと思う。例えば寸法的に50分の1くらいの緩い勾配で屋根が乗っていても、勾配屋根になってしまう。そのあたりが専門家から見ると微妙であるが、一般的に見ると見過ごされてしまう。例えば、写真の家の壁が、土壁であって、両脇がガルバリウム鋼板だったらどう見えるか。どっちが自然かという議論になる。この基準を細かくすればするほど、非常に問題を含んでくるので、そこをどうするのかをまとめていただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう意味で議論するには、非常に良い写真である。この写真は良い事例で使うにも、悪い事例で使うにも適切ではない。意図が伝わる写真を使ってもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この基準を指針に出す難しさはある。これをいくらやったところで、その網にみんながすんなり入ってくることはありえないと思う。ひとつの団地を新しくつくるといった場合には、東金の季美の

	<p>森みたいに、「景観賞取りましょう」として、厳しい規制をかけることはあると思うが、既存の住宅でまちなみをつくるときには、こういう指針があっても、曖昧さが付いて回る。「中は自分のものだけ、外はみんなのものだ」という精神しかないと思う。外は自分だけのものではないから、少し気を使うということから景観は生まれると思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それが作法だと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「中は所有者のものだけど、外はまちをつくっているひとつの建物だから配慮が必要なんだ」と、作法の冒頭にしっかり書いていただきたい。 ・項目構成で気になったのが、「行為の制限について」は、景観計画で良く使われている文言ではあるが、上から目線の言葉であり、素案の流れでいくと、読み手は、びっくりすると思う。本文中に出てくるのは良いが、タイトルにつかうのは止めないか。「景観形成基準」は、届出対象だけではなく、みんな配慮しましょうという事だと思う。これこそが景観づくりの作法である。「景観形成基準」の項目については、「行為の制限」より前に持ってきた方が良い。そのため、タイトルを「大規模な建築物工作物の届出」などとし「景観形成基準」を参考にして、みんなに配慮してもらおうが、特に大きなものについては、影響が大きいから届出してください」という流れにして、その次に「届出の流れ」があるとすっきりすると思う。また、「景観形成基準」だけ、独立させて「5-2」にしても良いかもしれない。これまでみんなでやりましょうという話だったのに、急に上から目線みたいな感じになって違和感があるので、ご検討いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく理念の言葉や「つなぐ」、「生業」など、なんとなく暖かい言葉を使っているのだから、心を入れた方が、作法につながると思う。ドイツの町がなぜ綺麗かという、「あなたも家も景色の一部です」というパブリックな考え方でやっている。山武市の景観の一部として、家を考えられたらいいのではないか。 ・それから、キャッチフレーズが長い。例えば60頁の図で、上二つの丸の文言はすっきりしているのに、下の丸の文言については、だんだん長くなっている。景観づくりの話なので、「景観づくりの核となる建造物・樹木」ではなく「建造物・樹木」、「公共施設」とした方がすっきりするのではないか。真ん中の文言も「山武市」は取ってしまい、「景観づくりの作法」より、考え方をここに書き

	<p>た方がいいのではないかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制限はあるが、罰則規定とかは別はないのか。心構えをしっかりとっておけば良いという事だと思うが。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・60頁の図は作り直し。 ・罰則のことについては、ここには記載していないがどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・69頁をご覧いただきたいと思う。審査後、適合しない場合は「指導・助言」→「勧告・変更命令」→「公表」という流れのイメージになっている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これは大規模な建築物・工作物に関してか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。一般的な専用住宅については、配慮いただく形になると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・景観計画の策定の範囲について、具体的な制限を景観計画に入れなくてはいけないものなのか。もっと後の段階で細部規則などを設けるのではないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度は、景観計画に記載させていただいて、ガイドラインの方で細かなものを定めていくことになる。それに加え、条例規則の中での、届出の細かい手続きについて、定めさせていただく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・景観計画の中で、こんな細かなことまで触れるのはおかしいのではないかと個人的には感じた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・景観計画の標準仕様だと、だいたいこんな感じで、「大規模な建築物・工作物とはこれ」というところまで決めており、景観形成基準については、具体的にどういう事なのかについては、ガイドラインに記載することになる。ただし、山武市では、「建物の外側はみんなの共有財産だから配慮しよう」というところで止めてしまう事も考えられるので、それについてはこの場で皆さんにご議論いただきたいところである。基準について、この程度の内容であれば実は今の段階では、特に何が縛られるというわけではない。どのくらい配慮すればいいのかがわかるものになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物は、場所によって「ここは厳しく」、「ここは賑やかさがあっても良い」などがあつた方が、まちとしては自然かもしれない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩にはメリハリがあつたほうが良い。広告の効果でまちなみが生き生きすることもあるので、どこも一律でない方が良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・道沿いに濃い色合いがあると、非常に違和感があるが、成東病院のすぐ手前に店舗ができて、すごい色であるが、道沿いから引込んでおり、まだ許せる。しかし、東金病院から大網の方に行く

	とき、もう潰れてしまったが、とんでもない色の店舗があり、道沿いにあったので許せなかった。
委員	・ところが、あの店舗は、城跡公園から見るとやたら目立つ。しかし、今の意見を聞いて、なるほどなと思った。道路からは目立たなくても、視点を変えると、目立つものもある。
委員	・あの色は自分の中でも景観を壊していると思う。
委員長	・実際にガイドラインを作るときに、視点について考慮しながら作業していただきたい。すぐそばで見るときと、ちょっと離れてみると、遠景・眺望で見るときと、それぞれ感じ方が変わってくる。
委員	・先ほどの説明で、「駐車場と沿道との関係は、植栽を植えて…」という話が出たが、問題は駐車場自体で、アスファルトで埋めてしまうのはかなり暴力的だと思っている。あの下が全部死んでしまうし、水はけもできないので、様々な問題が起こる。所によっては30cmのセメントのパネルを市松状に置いて、あとは芝生にするなど、いろんなアイデアが出ている。少なくともセメントやコンクリート、アスファルトで全部を覆うのは止めるなど、考えても良いのではないかと。景観的にも真っ白な駐車場は気持ち悪い。このように、景観形成基準の細かい所については、ひとつひとつ突っ込みどころがあり、時間がかかるので、それはガイドラインで整理し、今回は作法の心得でまとめられたらいいのではないかと。
委員長	・景観計画の段階では、考え方が伝わるのが非常に大切である。細かいことについては、書き過ぎると、逆に穴が目立つ。
委員	・未来をどんな景観にするのか、理想でもいいので、一番最後に、書いた方が良いと思う。今意見にもあったように、駐車場をセメントで埋めてしまうと息苦しいわけで、人が少なくなると思う。未来の中の良いキーワードを最後に書いて、「そっちに向かっていくのだな」というのがわかるようにすると良いのではないかとと思う。
委員長	・起承転結の「結」があるようにということで、メッセージが伝わるようにお願いしたい。

－以上－

◆その他

次回（第6回）策定委員会の日程調整を行い、平成26年8月26日（火）14時から開催することとなった。